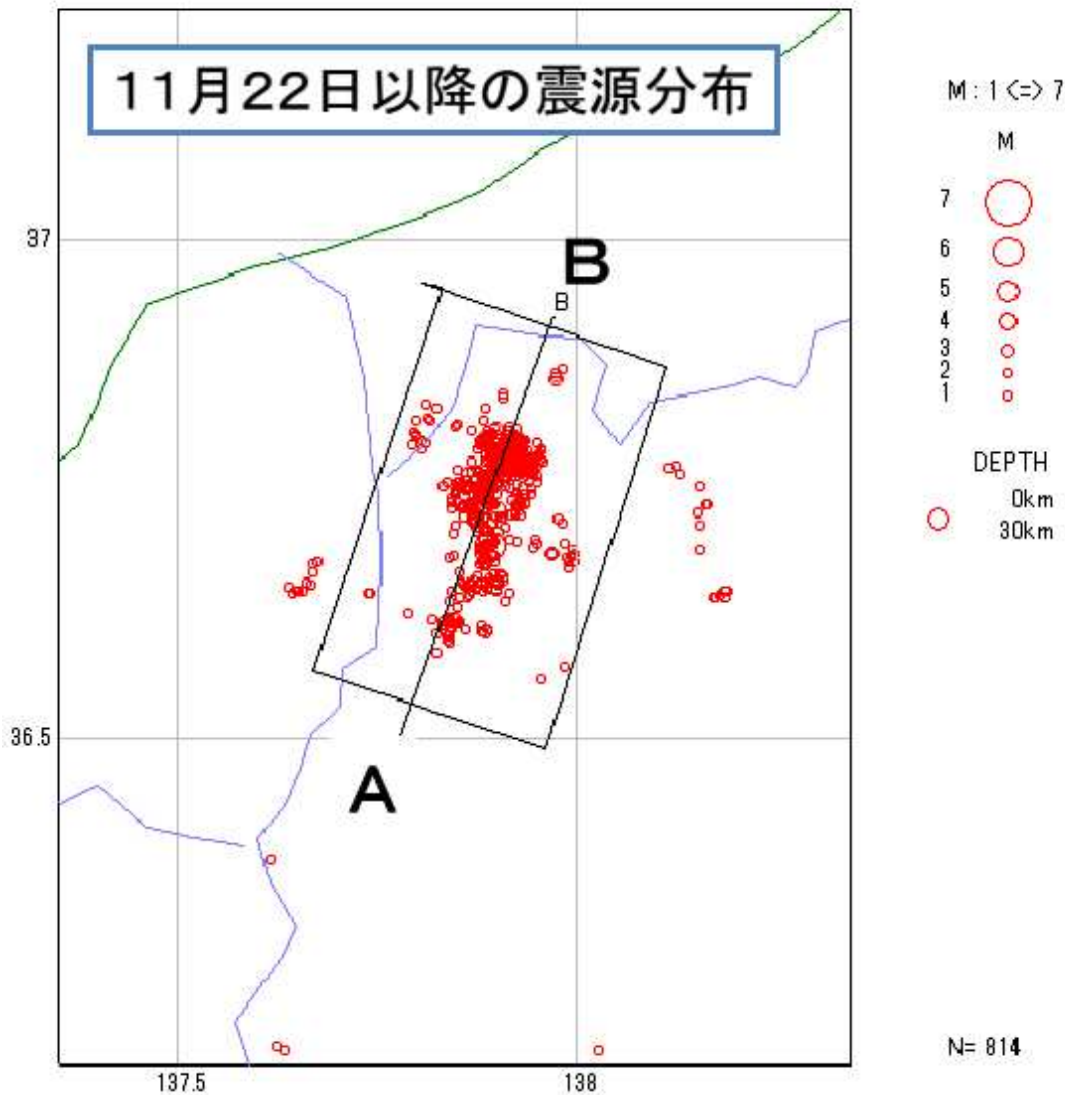


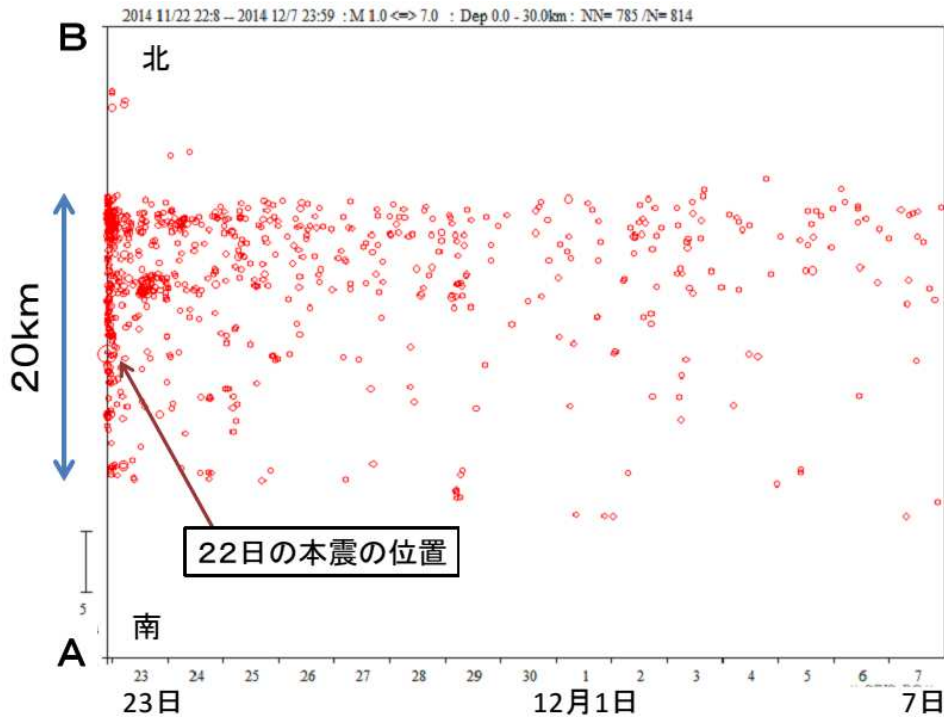
11月22日に発生した長野県神城断層地震の続報

この地震の正式名称が「長野県神城断層地震」となりました。神城断層はその長さが25 km以上あるにもかかわらず、今回の地震で“割れた”のは20 km弱程度でした。この事からさらに南側で大きな地震活動が発生するのではないかと危惧されていますが、現時点では、少しその可能性が小さくなってきました。なおこれは余震活動の推移だけからの情報です。下の図は11月22日以降の長野県北部を中心とした余震活動です。

2014 11/22 22:8 -- 2014 12/7 23:59



約2週間で800個近い余震が発生している事が判明しました。この上の図のA-B断面にそって地震活動がどのように推移したのかを見たいと思います(次ページの上の図)。神城断層にはまだ南側に割れ残りが存在するだけでなく、さらに南側には松本盆地断層群、さらに南には牛伏寺断層というように大きな断層が連続して分布しています。幸い余震の発生は神城断層内に留まっており、当面の危機は脱したとも判断できます。今後も断層沿いの地震活動がどのように推移していくか、注視していく必要があると思われます。



上の図が前ページの A-B断面に沿った地震活動の推移 で、横軸は日付となっています。ほぼ余震の位置は動いていない（南下したり北上していない）事がわかります。

下の図は地震の積算数グラフと呼ばれるもので、地震学では極めてよく使われる表現です。指数関数を逆さまにしたように見えるという事は余震活動が順調に低下している事を示しています。

